

# (財)やまぐち県民活動きらめき財団からの

# お知らせ

## 「第1回ボランティア・県民活動促進ポスター原画コンクール」入賞作品が決まりました。

第1回ボランティア・県民活動促進ポスター原画コンクールの入賞作品が審査会による審査の結果、下記のとおり決定し、「県民活動ボランティアフェスティバル2005」の会場(11月6日於山口県セミナーパーク)で展示いたしました。

### 中学生の部

銀賞：林直希さん(田万川中学校)  
銅賞：杉本祐樹さん(田万川中学校)・隅野絢子さん(田万川中学校)  
佳作：大河美乃莉さん(田万川中学校)・藤井真莉奈さん(豊北第一中学校)・伊藤愛奈さん(長成中学校)  
※金賞は該当なし



中学生の部 銀賞

### 高校生の部

銅賞：松尾怜美さん(佐波高等学校) ※金賞、銀賞は該当なし

## ご寄付をいただきました

全日空山口宇部支店では、国際線のファーストクラスの搭乗客に作務衣(さむえ)を提供していますが、この作務衣をクリーニングしてリユースすることとし、「エコフェア」のチャリティーバザーで販売しています。その売上金を環境への取組み活動に対する助成金として、当財団にお寄せいただいています。今年も去る11月8日(火)、同支店のマネジャー山口総一郎様(写真左)から124,450円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。



## 支援センターからのお知らせ

### 来年度、支援センターが移転します

平成18年4月1日より、やまぐち県民活動支援センターが移転します。なお、平成18年3月末までは、これまでどおり現在の山口県社会福祉会館(4階)で業務を行っておりますので、どうぞご利用ください。



移転先は  
〒753-0064  
山口市神田町1-80  
防長青年館  
(パルトピアやまぐち)  
2階になります。

### 表紙の写真:支援センター意見交換会

県民活動団体の交流を図る意見交換会を9月28日、当支援センターで開催しました。団体の活動の様子やこれからの活動の参考になる情報の交換が行われました。また、支援センターへのご希望や感想などもいただきました。支援センターに対するご意見をこれからもお寄せください。

### 社会福祉会館4階 (財)やまぐち県民活動きらめき財団 やまぐち県民活動支援センター



※「県民活動交流サロン」のご利用には事前の予約が必要です。ご予約・お問い合わせは、やまぐち県民活動支援センターまでお願いします。TEL:083-934-4666

やまぐち県民活動支援センター 利用時間のご案内  
月曜日・祝日・年末年始を除く毎日  
(12/29~1/3)  
火~金曜日 9:00~21:00 / 土・日曜日 9:00~17:00

### 編集後記

この時期は、各地で様々なイベントが開催されています。興味のある催しが同じ日に重なっていて、どうしようかと迷ったことはありませんが、そういうイベントの広報の重要性を感じます。タイミング良く、効果的な広報ができるといいですね。

R100 再生紙を使用しています。

# さぼ〜と21

私が 主役  
あなたも 主役  
みんなのパワーが 県民活動

- 特集 県民活動ボランティアフェスティバル2005 記念講演、分科会、その他の催し
- 活動団体紹介 県民活動パワーアップ賞受賞団体特集:上関町水仙研究会/しものせき・竹アンサンブル/周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会/被害者支援センター・ハートラインやまぐち/まごころの里
- お知らせ 原画コンクール入賞作品決定、ご寄付の報告、支援センター移転のお知らせ

財団法人 やまぐち県民活動きらめき財団 TEL 083-924-9090 FAX 083-924-9096  
URL http://homepage3.nifty.com/kirameki/ E-mail kirazd@nifty.com

やまぐち県民活動支援センター TEL 083-934-4666 FAX 083-934-4667  
URL http://www.kenmin.pref.yamaguchi.lg.jp/ E-mail myama@mbe.sphere.ne.jp  
〒753-8555 山口市大手町9-6 山口県社会福祉会館4階



9/28 支援センター意見交換会

## 県民活動 ボランティアフェスティバル 2005

11月6日(日)山口県セミナーパークで『県民活動ボランティアフェスティバル2005』が開催されました。当日は、記念講演の他、分科会、活動PRや展示などが行われました。その様子をご紹介します。

### 記念講演 東京ボランティア・市民活動センター所長 山崎 美貴子 さん

#### ボランティア・NPOによる協働は新たな地域社会づくりをめざす ～ボランティア・NPOの今後の展望と課題～

プロフィール  
立教大学大学院文学研究科応用社会学専攻修了後、英国マンチェスター大学院留学  
明治学院大学教授・副学長歴任  
現神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部長、東京ボランティア・市民活動センター所長

### 福祉は「自分たち福祉」

高齢率が高くなってきた現在、一人暮らし、高齢者のみの世帯が増えてきています。また、障害者自立支援法が成立し、介護保険の導入後、本年度に見直しが行われ、新しく介護予防が入ってきた背景は何かということを見ると、これまで家庭で担ってきた高齢者のケアや障害者の自立支援を、当事者と家庭だけではなく地域社会が共に支え合うシステムの構築が求められてきているという時代状況が見えてきます。

福祉とは「自分福祉」だけではなく「自分たち福祉」なのです。自分自身が住み慣れた場所で安心して暮らし続けるためにも、私たちは自分たち自身の手でお互いに支え合う社会を築いていかなければならないと考えています。市民公益といわれるボランティアやNPOの存続は、実は私たち一人一人の肩にかかっているのではないのでしょうか。例えば、近所づきあいの中で、「そういえば・・・」、「どうしたのかしら?」と気遣うことから大きな事故を防ぐことが出来たり、あるいはそこから心が通い合ったりすることが始まるのです。

基礎構造改革では、「誰も排除しない社会を作っていく」ということが福祉の中心の考えとしてあげられ

ました。行政がすべてやるのではなくNPO・行政・企業そして市民一人一人がパートナーシップを結び、誰もが参加できる新しい社会を作っていかなければなりません。

こうした中で、私たちは今何をしていかなければならないのでしょうか。

誰もが不公平にならないようにしていくためには、どういう仕組みを作っていくかということが問われてきます。そのキーワードは、実は「情報の発信と共有化」なのです。情報の出し方と情報の作り方、そしてもう一つ大事なものは情報の開示なのです。これらがしっかりと地域の中に作られることが必要です。これを別の言い方で「透明性」と言います。

これからのNPO・ボランティア活動は自己満足だけでは成り立ちません。「いいことをやっているのだからきっとみんなにわかってもらえる。」といった風ではダメなのです。



「さぼ〜と21」は、各市役所・町村役場・公民館・図書館・各市町の活動センター・一部の大型店・道の駅等で配布しています。イベント、助成金情報はメールマガジン「さぼ〜とメール」にてお届けしています。ご購入や情報掲載のご希望については、お気軽に支援センターまでお問い合わせください。

県民活動  
**ボランティアフェスティバル**  
2005

新しい社会づくりの工夫

今後は工夫の勝負です。企業に行って「お金を下さい」という時代は終わりました。企業のノウハウをどういうふうにしてNPOにつないでいくのかということを考えていかなければなりません。今までは予算があり、それに基づいてプログラムを立てて実行していましたが、これが逆になりました。まず、活動ありきなのです。ですから、最初はまずやってみる事です。そして「これにはこういう効果がある」と示して行政やまちを動かしていく、そういう時代なのです。

そのためには情報と情報をつなぎ合わせ、人と人をつなぎ合わせるということが重要になってきます。

現在は、いろいろな意味で家庭生活が変わってきました。家庭の中での人間関係がとて薄くなってしまい、コミュニティが変わってきてしまったのです。このような状況の中、社会の中で壊されていくものと、もう一度作り直していくものを見極め、気づいた人が、その「気づき」を大切に、どうしたらいいかということを考えていかなければならない状況にあります。

NPO・ボランティアに携わる人は地域のことを一番見ていて知っています。地域で今、何が起きているかをつかんでいるのです。この「気づき」と「発見」を支援システムとして作り変えていくことが、現在強く求められているのです。

協働は新たな地域社会づくりを目指す

一般に新しい事業を始めた場合に、一つの手段や手立てがあるとそこに関心を持つ人達が集まってきます。そしてその小さな活動を積み上げていながら、次にそれをシステムに変えていく必要があるのです。そのシステムがだんだんにボランティアやNPO団体に育ってくる過程で、それを言葉にし、情報開示し、提言



へとつないでいく必要があります。その結果、行政に働きかけ、行政と一緒に協働のプログラムを作っていくことになるのです。

今までは長い間、国や自治体がプログラムを作ってきましたが、これからは市民が下からボトムアップしていきながら、横社会をどう築き上げていくかということが問われるようになってきているのです。

いろいろな活動をしていると、時には「生きるとはどういうことか」ということを問いかけるような瞬間や出来事があります。私たちは自分たちの暮らしに責任を持つと同時に、他の人のことに対しても我が事として取り組み、それを一つのシステムとして作り上げていくために、小さな勇気と冒険心を持っていくことを心がけていきましょう。そして「生きるとはどういうことか」と自分自身に問いかけながら、自らの地域を耕し続け、私たち一人一人が「本当に生きていて良かった」と実感できるコミュニティを共に築いていきましょう。



開会式典では、県民活動団体23団体、個人25名が平成17年度「やまぐち県民活動きらめき財団理事長表彰」を受けられました。また、「企業ボランティア活動促進モデル事業所」として新たに3事業所が指定を受け、紹介されました。

■やまぐち県民活動きらめき財団理事長表彰



■企業ボランティア活動促進モデル事業所



分科会

第1分科会 運営 山口県ひとづくり財団 生涯学習推進センター

新たな出会いを求めて!

～みんながつながりあう 見つけた協働の喜び～

第1分科会では、「阿知須レクリエーション愛好会」、「おはなしクレヨン」、「国立山口徳地少年自然の家・大学生ボランティアスタッフ」の各代表によるパネルディスカッションが行われました。皆さんに共通しているのは、まず自分たちが楽しみ、そしてその楽しさをみんなで分かち合いたい、一緒に楽しみたいと思って活動が続けたいということでした。会場に来られた方の中から早速「是非今度一緒に活動しましょう!」という声も上がり、テーマの通り「新たな出会いとつながり」が生まれた分科会でした。また別室では、高校生によるメモリアルランプの制作指導や創作紙芝居の実演が行われ、来場者の拍手喝采を浴びていました。



パネルディスカッションの様子



メモリアルランプ制作中

支援センター  
スタッフ  
の感想

活動について語られる皆さんの生き生きとした笑顔がとても印象的で、「ボランティアは楽しい!」を改めて実感できました。(清徳睦美)

第3分科会 運営 国民文化祭やまぐちボランティアセンター 山口県国民文化祭推進室

いっしょにやろ〜いね!

～行って!見て!参加しよう! 第21回 国民文化祭・やまぐち2006～

第3分科会では、来年に控えた「第21回国民文化祭・やまぐち2006」(以下、国文祭)のボランティアセンターが、ボランティア登録を呼びかけていました。第19回国民文化祭・ふくおか2004のDVD放映、質疑応答やポスター展示、子ども向けにはマスコットキャラクター「山口きららバンド」のドンガと一緒に写真を撮ろう!などの楽しい企画が繰り広げられていました。現在、様々な地域でイベントが開催されている国文祭の新しいポスターには、赤い部分にたくさんの手形が押しあがっていました。みんなで力を合わせて国文祭を成功させようという意気込みを表わしているようでした。この日も多くのボランティアの方々の協力があり、とても和やかな雰囲気での分科会でした。



ボランティア募集説明と質疑応答



ドンガと一緒に写真を撮ろう

支援センター  
スタッフ  
の感想

「みんなで参加する国文祭の心が伝わりました。一人でも多くのボランティア登録があることを願っています。(村上真実)

第2分科会 運営 NGOネットワーク山口 JICA中国 (財)山口県国際交流協会

体感! 山口から世界を知ろう

～見ちゃる、やっちゃる国際協力～

「国際交流・協力、憧れるけれど自分にもできるかな?」と、ワクワクしながらもちょっと緊張した面持ちで集まった参加者でしたが、全員でフィリピンの遊びを体験し、リラックスした雰囲気でのびのびと楽しみました。まずは各グループに設定された6つの国(ベトナム・モルジブ・タイ・中国・ケニア・パレスチナ)の写真を5枚集めるというゲームに挑戦しました。5枚そろったら、写真を見て気づいたことや感じたことなどをグループで話し合っ発表しました。次に、韓国やフィリピンなどの国に関するクイズを行い、正解発表の説明に、それぞれの国への理解が少し深まったようでした。参加者が、ゲームやクイズを通じて外国を知り、世界を身近に感じているような分科会でした。



フィリピンの遊びをみんなで!



「この写真はどこの国?」

支援センター  
スタッフ  
の感想

国際理解の第一歩は、興味をもって知ろうとすること。そこから、きっと世界とつながっていくんだなあと思いました。(オボ久美子)

第4分科会 運営 県民活動促進キャンペーン実行委員会

県民活動ホッチポッチフォーラム

～おいしい素材を見つけよう!～

第1部では「やまぐち県民活動パワーアップ賞」を受賞された5団体の活動発表と質疑応答がありました。第2部では「ワンモアライフ勤労者ボランティア賞」を受賞された方達の活動紹介の後、発表者と会場の皆さんによるパネルディスカッションが行われました。参加者からは、資金源や具体的な活動等について質問が出されました。なかでも、活動拠点については団体にとって大きな問題であり、議論が活発になり盛り上がりました。また依頼を受けるボランティアについては、初めて耳にするような内容もあり、参加したみなさんは驚きの表情でした。ホッチポッチ(ごった煮)にふさわしく、県内各地からの情報を得て、意見交換をする良い機会となりました。



パワーアップ賞受賞団体による活動報告



フロア参加型パネルディスカッション

支援センター  
スタッフ  
の感想

「おいしい素材」がぞろい、皆さんのこれからの活躍(料理)が楽しみです。(山本有希)

# 県民活動 ボランティアフェスティバル 2005

## 県民活動見本市

～山口発 来て・見て・出会って  
ボランティア活動探訪ツアー～

運営 (財)やまぐち県民活動きらめき財団

きらめき財団では、初の試みとして、「県民活動見本市」と銘打った活動PRコーナーを企画しました。今年度の助成金交付団体に参加を呼びかけたところ、9団体から出展がありました。各団体とも工夫をこらして、自分たちの活動の様子を表や写真にしてパネル展示したり、ITを駆使して映像で表現したり、踊りの披露などを行いました。来場者も熱心に質問し、展示に興味深く見入り、感心しながら各コーナーに足を止めておられました。

[担当:やまぐち県民活動きらめき財団 重村]



### 県民活動ボランティアフェスティバル2005 実施概要

日時: 2005年11月6日(日)  
場所: 山口県セミナーパーク  
テーマ: 「ボランティア・NPOによる  
新たな地域社会づくり」  
主催: (財)やまぐち県民活動きらめき財団  
(財)山口県ひとり暮らし者支援センター  
(社)山口県社会福祉協議会  
共催: 山口県経営者協会  
(社)山口県労働者福祉協議会  
(財)山口県文化振興財団  
(財)やまぐち女性財団  
(財)山口県国際交流協会  
JICA中国  
NGOネットワーク山口  
やまぐち県民活動支援センター  
国民文化祭やまぐちボランティアセンター  
(社)山口県社会福祉協議会  
後援: 山口県 山口市  
協力: 中国電力(株)

## 活動PR

### 男女共同参画社会の 実現をめざして

～夢わかちあい個性きらめく明日へ～  
運営 (財)やまぐち女性財団



「長州女ここにありthe film」他のビデオ放映

## 生涯現役!!

～元気で生き!活き!～

運営 山口県健康生きがいつくりアドバイザー連合会  
シニアネットやまぐち



「健康や生きがいについて考える一日にしましょう」

### 当日の主な流れ

- 9:00 受付
- 9:30 開場
- 10:00 開会式典
- 10:30 記念講演  
「ボランティア・NPOによる協働は  
新たな地域社会づくりをめざす  
～ボランティア・NPOの今後の展望と課題～」  
講師 山崎 美貴子 氏(東京ボランティア市民活動センター所長)
- 12:00 昼食・フリータイム  
(交流会・出展(展示・体験)コーナーなど)
- 13:00 分科会・活動PR展示  
(県民活動・福祉・生涯学習・国際協力・NGOなど)
- 15:00 閉会

## 展示・体験コーナー

## 国際交流

運営 (財)山口県国際交流協会  
JICA中国  
NGOネットワーク山口

### 夜回りオヤジ(美祿市)



「自分たちの地区でも、巡回が必要だ」との、多くの声を聞きました。来場者や他のグループと交流ができて嬉しかったです。

### 山口県字幕サークルEライン(山口市)



聴覚障害者に対する「字幕」というものがあることを知っていただきました。皆さん「字幕」に興味を持たれていました。

### 宇部市旭が丘すみれの会



「今を楽しんでまーす」を実践し、講堂横の広場で、15名によるフラダンスを披露しました。

### 歌野の自然とふれあう会(下関市菊川)



写真を床に展示した奇抜なアイデアが、来場者の目を引きました。

## 企業勤労者ボランティア

運営 山口県経営者協会  
山口県ボランティアセンター  
(社)山口県労働者福祉協議会



企業等社会貢献活動事例発表



企業の社会貢献活動・人材バンク及び  
マルチライフ支援事業紹介パネル展示



在住外国人による料理教室



アフリカンドラム体験コーナー

### NPO法人モモ(玖珂町)



他の活動団体の方々と、知り合うことが出来ました。来場者に関心を持っていただき、応援のメールもいただきました。

### NPO法人ふるさとボランティアあど(山口市)



このような機会は、活動する上で励みになります。来場者からも興味を示していただきました。

### 下松市明るい社会づくり推進協議会



「キッズリサイクルフェア」や「ECO研修会」「エコネットHUGアース」の模様を表と写真にし、パネル展示しました。

### 北京JAC山口



男女共同参画社会の実現をめざし、NGOとして「北京行動綱領」を国内・地域政策で実現するため、学習や政策提言することをアピールしました。

### 岩国市図書館情報ボランティアの会



「IT普及講座」のPRのため、パソコンを持ち込み、来場者の皆さんに、イラスト作成などの体験をしていただきました。

## その他の催し

### 国民文化祭・やまぐち2006PR



ぶちきらめき隊と山口きららバンド



二胡の演奏

### 高校生による 創作紙芝居の実演など (第1分科会にて)



「どの絵本が好き？」



創作紙芝居「ももたろう」



試食販売

# 平成17年度 県民活動パワーアップ賞 受賞団体紹介



「やまぐち県民活動パワーアップ賞」は、平成12年度にやまぐち県民活動支援センターのオープン1周年を記念して創設された知事表彰です。コミュニティ活動、ボランティア活動、NPO活動などの県民活動のうち、特に先駆的なもの、話題性のあるものなど、毎年5団体を表彰しています。

自主的、主体的な取り組みによる県民活動をさらにパワーアップさせるとともに、活動の拡がりによる魅力あふれる地域づくりを促進し、「元気で存在感のある県づくり」を目指します。

【主催：山口県（環境生活部県民生活課県民活動推進室）】



10月12日（水）表彰式での記念撮影

## 県民活動パワーアップ賞 ①

### 上関町水仙研究会

「スイセンの里」を復活させるため、平成13年に地元の有志により水仙研究会を立ち上げ、さまざまな活動をしています。

主な活動は、道路の拡幅工事や高齢化で管理できなくなったほ場から球根を掘り上げ、その球根を町の観光拠点などに植え付けたり、小さい球根は養成するなどの活動を行い、ボランティアや町内の中学生・町観光協会との体験交流活動にも取り組んでいます。また、昨年は地域住民との協働により「上関町花いっぱいマップ」を作成しました。今後もこうした活動を絶やすことなく、

「スイセンのまち上関」の実現に向けた取り組みを行っていきたいと思います。



代表：片岡 栄志  
住所：〒742-1403  
熊毛郡上関町室津  
TEL：0820-62-1171

## 県民活動パワーアップ賞 ②

### しものせき・竹アンサンブル

私達は、里山の再生と里山活動の意識醸成の高揚を図り、里山に多く分布する竹林を整備し、切った竹の有効活用を考え、里山文化を創造することを目的としています。

活動としては下関市王喜地区で荒れた里山の竹林整備をし、切った地元の竹を使って楽器製作から演奏まで、すべて団員の手で行っています。「全国竹の大会」や「豊かな森林づくり県民の集い」など、地域での演奏活動を重ねた結果、竹の奏でる音色の美しさから多方面より演奏依頼が届くようになり、「竹楽器」の音色と共に里山の魅

力の情報発信を行っています。



代表：村田 悟  
住所：〒752-0904  
下関市大字員光1643番地  
TEL：090-3176-3843  
FAX：0832-48-1900

## 県民活動パワーアップ賞 ③

### 周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会

江戸時代から約200年の歴史を持つ郷土芸能、山口県指定無形民俗文化財「周南市安田の糸あやつり人形芝居」の保存・伝承はもちろん、特に後継者となる青少年の健全育成に努め、併せて郷土愛や文化の向上に寄与することを目標としています。

三丘小学校、熊毛北高等学校の総合的学習へ人形芝居の指導に出向いています。徳修館において「人形芝居こども教室」を開講（主として土曜日と夏休み）しています。毎年地域の文化祭、徳修館祭で上演。またケアハウス、特別養護老人ホームで慰問公演

を実施しています。



代表：(副会長)有馬 亘  
住所：〒745-0631  
周南市安田573-3  
TEL/FAX：0833-91-0003  
E-mail：  
wrksmk-a@kvision.ne.jp

## 県民活動パワーアップ賞 ④

### 被害者支援センターハートラインやまぐち

犯罪・災害・事故等で被害を受けると、私たちは、身体的にも精神的にも大きな傷を受けます。また、突然の出来事の中で短期間のうちに、たくさんの解決すべき問題に向き合わねばなりません。

本来は、被害者自身の主体的な力による回復が大切ですが、多くの場合、それがすぐには困難です。

そこで被害者支援センターハートラインやまぐちは、犯罪・災害・事故等による被害者やご家族の方への精神的支援を目的とし、主に電話相談、啓発活動、相談員研修を行

っています。



代表：小嶋 容子  
住所：〒755-8690  
宇部郵便局私書箱6号  
TEL/FAX：083-974-5115  
URL：<http://www.h2.dion.ne.jp/~heart-l/>

## 県民活動パワーアップ賞 ⑤

### まごころの里

「いきみikiikiセンター」で活動を始めて9年になります。私達会員の平均年齢は73才。高齢者で頑張っています。自分達が育てた新鮮な野菜や花、手作りの寿司・餅・蒟蒻・漬物等の加工品を販売しています。盆と正月をのぞいたほぼ毎日開店し、町内外からのお客さんたちとの交流を深めています。会員みんなで協力しながら仲良く運営し、もし問題が起これば会員同士話し合いによって解決するようにしています。地産地消の振興にも一役買って、小中学校に野菜を届けています。野菜を作る楽しみ、売る楽

しみ、人とのふれあいを楽しみに頑張っています。続けていくつもりです。



代表：末広 花子  
住所：〒740-1231  
玖珂郡美和町生見1887-1  
TEL：0827-97-0500  
(まごころの里)